

第2回関西のブランド力向上推進有識者委員会

1. 開催日時：平成23年1月24日（月） 10:00～12:00

2. 場 所：合同庁舎1号館 第一別館2階 大会議室

3. 出席者：別紙参照

4. 議事要旨

○開会挨拶

- ・ 先日、「はなやか関西～文化首都年～2011」の取材があり、これまで進められてきた近畿圏広域地方計画において「関西は『文化首都圏』」という考え方があること、故梅棹忠夫先生が関西文化学術研究都市構想の推進にあたって文化の重要性を指摘したこと、そして、先人たちが提唱してきた「文化首都」の考え方をわれわれ世代が引き継ぐことの重要性について話した。
- ・ ただ、「文化首都」の概念を全く理解していなかったため、「欧州文化首都」事業（欧州連合が指定した加盟国の都市で、一年間にわたり集中的に各種の文化行事を展開する事業）を紹介し、都市全体で催事が行なわれていることを説明した。
- ・ 「はなやか関西～文化首都年～2011」では、「茶の文化」をテーマに設定している。関西を元気にするためには、一点突破の考え方が必要であり、「茶の文化」というテーマから生まれる様々なブランドを地域全体に広げたい。この思いをできるだけ多くの関係者と共有しながら進めていきたい。（橋爪座長）

[応募案件への可否について]

- ・ 概ね選定されたものは妥当。
- ・ 学研都市は研究者ばかりで潤いのないエリアと言われているが、今回の応募取組が京都府南山城地域に集中したことにより、「茶の文化」で潤いを付けるという方向性が見えてきたのではないか。
- ・ 今回の応募には入っていないが、池田炭は茶道用の上質な炭として茶道に不可欠と言われるほどに評価が高い。阪神・淡路大震災の後、茶道各流派の家元が猪名川町に池田炭の安否を調査した程である。池田炭の取組があれば、「はなやか関西～文化首都年～」の取組は里山などに広がるのではないか。
- ・ 良好に維持管理している里山では炭がとれる。お茶の消費文化につながる部分も目配りできれば良いのではないか。（河内委員）
- ・ この一覧表だけでは、新たにどこかが参加したいという気持ちにならない。観光施策につながるよう、線につながるルートづくりが必要で、誰が観光の主体となるのかを明らかにすることが求められる。
- ・ 情報発信面では、例えば高速道路での移動を想定した観光ルートが掲載されたパンフレットなど既存の媒体がある。「はなやか関西～文化首都年～2011」の情報を

- 掲載してもらうなどの活用ができるのではないかと。
- また、最近、鉄道会社がさまざまな企画商品を出しており、例えばハイキングを兼ねてお茶を楽しむ企画を練るなど、スルッと KANSAI、乗り放題バスを利用したルート巡りなど、鉄道会社への提案の働きかけが重要となる。
 - お茶というテーマに沿った素材を用いて、地域全体で統合されたソリューション商品を提供することが、最も事業の効果を上げることができるのではないかと。
 - ビジットジャパン地方連携事業の枠組みを使って海外からの団体旅行に対して集客を促すことは難しい。旅行会社側もその収益が見えにくい。むしろ、個人旅行者が集客のターゲットになるだろう。
 - 例えば、パワーブロガーである個人旅行者が、ブログでお茶の文化を語り、自国でブームを起こしていただく手法は最近よく使われている。パワーブロガーは訪問地の美しい写真を掲載するので、目的地（ディステーション）をアピールすることになり、結果、費用をかけずに茶の文化を拡げることにつながるのではないかと。
 - 蛇足になるが、応募取組が関西の中心部に集中しており、日本海や太平洋の縁辺部での取組がない。縁辺部で何か取組があれば地域も支援しやすい、かなり目立った取組につながるのではないかと。（坂上委員）
- よくこれだけの数が集まった。
 - 各地域で様々な取組の展開については、今後検討すべきことであるので、先走りする必要はない。
 - 3月末にシンポジウム開催予定となっているが、この事業全体を通じてメインになるイベントが1～2件必要がある。先立つものがないという話もあるが、メインイベントがないと取組の認知度は高まらない。場所にはこだわらないが、大きなイベントを開催してほしい。（千田委員）
- ブランド論の立場から3点指摘する。
 - ①現状では、まだストーリー性がない。点が線、面になるようストーリー性を与えることが重要である。ストーリー性は観光商品化に通じる。
 - ②コアコンセプトを明確にすることが重要である。シンボルは必要であるが、そのバックボーンとなるコアコンセプトをきちんと設定する必要がある。
 - ③これを契機に何が残ったのか、レガシー（legacy：遺産）という観点を持って取組を始めることが必要である。何を永続的に残していくのかという意味でもある。
 - 提示された応募取組は単なる素材で、これらをどう組立てまとめるのかが今後必要となる作業である。
 - 追加応募があった際にどうするのか。一応、現在締め切られているとは思いますが、「はなやか関西～文化首都年」の認知度がまだ高まっていないところがあるので、年度途中であっても追加参加を認めた方が良いと思う。
 - 先に指摘した①から③に適する取組を構成機関同士が連携を強め、誰かがやるのかではなく、構成機関できちんと取り組んだ方が良いと思う。（堀井委員）

- ・ 核となる取組がない。なぜ「文化首都年」でお茶をテーマに設定するのか、具体的に進める段階になると、わからなくなってしまう。
 - ・ 取組団体に本事業の趣旨を再度理解していただくことが重要である。市民参加を促し、茶の産業と連携することは、テクニカル的には間違っていないと思うが、なぜお茶が文化首都年のテーマになるのかという趣旨を取組団体に分かってもらえるような説明をお願いしたい。
 - ・ また応募取組にイベントが多く伝統性はあるが、革新性がないので寂しく感じる。良いテーマなので革新性という観点から模索してほしい。(村田委員)
-
- ・ 「本物の関西」という上位概念が掲げられている。関西の本物を対外的に高らかにアピールし地域住民も誇りを持てるようにするという前提のもと、「本物の関西」を捉えている。各個別に展開する上でも上位概念を踏まえ、それをアピールすることを肝に銘じてもらいたい。
 - ・ 高速道路や鉄道会社といった民間事業者などと連携しながら、オール関西で進めていただきたい。(橋爪座長)
-
- ・ 今回は取組募集を締め切ったところであるが、初めての取組なので情報が十分行き渡っていないと認識している。
 - ・ 追加応募があった際には、決して排除しない。趣旨に賛同し、本事業に合致するようであれば追加選定する方向で検討している。その手順は別途相談させていただきたい。
 - ・ 昨年、応募団体からも追加応募の可否について照会があったが、最初から追加を認めると、当初の締め切り時に応募するインセンティブがなくなってしまうので明言していなかった。
 - ・ 現在は、取組を集めて整理した段階であり、線から面に至るルートづくりについては、来年度にかけて実行委員会を立ち上げ、連携やPRの面などにストーリー性を与えるよう検討していきたい。
 - ・ 応募の取組内容を事前に想定できなかつたので、有識者等に相談に伺ったが具体的な話を行うことができなかつた。各取組についてはさらに知恵を出し合い、その結果、つなげたり核となるものが出てきたりすると考えている。
 - ・ PRについては、先立つものがあるかという話もあるが、そのなかでいかに効果的にPRすることができるのか、知恵を振り絞って実施していきたい。例えばネットを活用した情報発信等を実行委員会の場で検討していきたい。
 - ・ 中央部に取組が集中しているが、テーマがお茶なので南山城地域などの中央部が比較的集まりやすかつた事情があると考えている。これを機会に縁辺部で活動している団体から参加意思表示が出てくることもあるかと考えている。追加があれば、取り込んでいきたい。
 - ・ 3月に予定しているシンポジウムもメインプログラムにあてはまる。単なるシンポジウムではなく、様々な地域の取組を紹介し、各地域のお茶を提供するブースを設けることができれば、一つのメインシンボルになると考えている。

- 平成 23 年度以降も検討会を開くだけでなく、シンボルを見出す作業や、あるいは関係機関と形づくりができればと思う。
- コアコンセプト、ストーリー性については、集まった素材を整理し、応募団体も含めて、取り組む方向性を一つにすることが重要だと思う。応募していただいた団体を放置するわけではなく、説明会を開催したり実行委員会に入っていたりできればと思う。その過程でコンセプトを共通認識していただき、ストーリー性についても議論できればと思う。
- 一過性ではなく、長く続く取組にしたいと考えている。さしあたっては平成 23 年度の実施になるが、今回、様々な地域に集まっていたり、取組同士のネットワークづくりにつながっていくだろう。今後残していくものを増やしていく方法を検討する。
- 応募時点で団体に趣旨を認識していただいていると思うが、今後も認識を一つにするために議論をしたい。
- 革新性については、既存事業が多いが、これを機会に新しい取組を展開できるように話をしていければ一番良いと考えているので、今後議論していきたい。
- 実行委員会において、「本物の関西」について関係者の認識を一つにできるよう考えている。
- 連携については、集まった取組だけでなく、関係者から協力を得られるように今後とも声掛けを続けていきたいと考えている。(事務局)
- 連携については、既に西日本高速道路に協力の相談を行っている。サービスエリアでお茶の販売などが考えられる。線でつなぐことは重要な課題なので今後もよく検討していく。
- 鉄道会社も運輸局を通じて相談したい。(山下副局長)
- ビジットジャパン連携事業について申し上げたい。関西のブランド力向上に関して、観光は有効なツールと考えている。
- お茶の観点から大勢の集客を期待する打ち出し方をしても難しいだろう。ブログなど IT を駆使した到達力のある手段を用い、魅力を伝えやすい広報手段が効果的である。その点について、ビジットジャパン連携事業は近畿ブロックの地方自治体と民間事業者が連携して取り組む際、より効果的な情報発信や商品のプロモーション方法を提案していただくことによって採択されるものが決まる。
- 来年度も秋頃に募集するが、お茶に関する応募があった場合、本事業を活用することで、より効果的な情報発信が実現できるのではないかと。
- 観光というツールがブランド力向上に有益だろうという目論見のもとに、今年度、モデルツアーを開催した。観光関係のステイクホルダーになると想定する旅行代理店などを招き、多岐に渡る意見をいただいた。その意見を旅行代理店やその他交通事業者フィードバックすることで、観光商品の今後の開発に役立てていただくことが重要である。
- 運輸局として観光の振興を通じたブランド力向上の取組を進めたい。(近畿運輸局)

- ・ 応募のあった取組は全て選定するものとする。追加応募の対応は私と事務局で検討し、各委員にご説明する。
- ・ 事務局の方から今後の進め方と流れについてご説明されたい。(橋爪座長)

[シンボル事業等について]

- ・ 昨年、堺市の事業仕分けを担当した折、堺まつりはメインとなる南蛮行列とお茶会の2つが、有機的につながっておらず効率が悪いと指摘した結果、私が座長となり見直しの委員会が立ち上がった。
- ・ 委員会では、お茶会を独自に展開する方向に変えた。本委員会と連携し、『はなやか関西～文化首都年～』のPRにつなげたい。
- ・ 市民参加の典型として堺の茶会と連携させていただきたい。(河内委員)
- ・ 林屋晴三先生にお願いする冊子づくりは、レガシーという意味では是非実現してほしい。
- ・ 同時に関西にある茶室を総覧できるような「茶室百撰」が既存でないのであれば、是非この機会に作成したらどうか。(堀井委員)
- ・ 専門家向きの書物はあるようだ。(橋爪座長)
- ・ ある建築士から民間の茶室で、世間に知られていない良いものがたくさんあると聞いたことがある。それらを研究し掘り起こしている専門家がいるとも聞く。
- ・ この機会に関西の茶室を掘り起こすことも、レガシーにつながるのではないか。(堀井委員)
- ・ 今の提案は、実現に向けて是非検討してほしい。茶室は、庭とセットで存在するものであり、京都でも毎年公開されているところがある。
- ・ 関西全体で茶室の一般公開はないと思われるので検討する価値がある。(橋爪座長)
- ・ 冊子を制作するのであれば、出版社主体で写真を中心に編集した雑誌になるようにしたらどうか。例えば「大人の旅」の特集誌として書店に並ぶ方が普及しやすい。研究者のための雑誌より、有料図書の販売に取り組んだらどうか。
- ・ 関西全体の文化振興については、「関西元気文化圏構想」があるが、他にも「歴史街道推進協議会」がよく似た活動をしているので、連携したらどうか。既存団体にとっても連携は意味がある。(坂上委員)
- ・ 参加取組に寺院が加わっていない点が気になる。喫茶は寺院と深い関係にある。参加していただいた方が良い。(村田委員)
- ・ 参加取組をあらためて見返すと、主体と取組は中高齢者層中心になるのではないか。

全体に落ち着いているが、地味なものが多い。

- ・ 文化が新しい世代に受け継がれることが重要なので、もう少し若者、大学生に呼びかける方法を探ったらどうか。(千田委員)
- ・ ある自治体で30数名の委員が参加する観光に関する会議が開催された。そこに経費節減という理由からウーロン茶が出されたが、これだからダメと指摘した委員がいた。この市は茶で売っているまちなので、なぜ地元の茶がでないのかという指摘だった。
- ・ 茶の文化を推進するにあたり、実行委員会でも是非「茶の文化」のもてなしや想いを共有できる趣向を考えてもらいたい。例えば、モデルツアーにおいて、和束茶をテイスティングするだけで和束町に対する思いが変わった。
- ・ 生産地と消費地をつなげる場合でも、事務局の「茶の文化」に対する姿勢を是非、示してもらいたい。
- ・ 茶室に関する取組は、国宝だけでは文化庁の取組と違いがでないので、世に知られていない見事な茶室や新しいが将来価値が出る茶室等に対象を広げるなど、従来とは視点が異なるものが明快に説明できるアイデアが必要。
- ・ 図書の出版については、広く知られるために、是非ウェブに載せてほしい。
- ・ 実行委員会発足後には、具体的なプログラムに対して意見が必要な機会が生じるので、今後もよろしくお願ひしたい。(橋爪座長)

[ロゴマーク選定]

- ・ 事前審査では票が割れているが、この場で一点を選ぶこととし、棄権者が多いときは再投票したい。
- ・ 全般的にどのロゴともアピール度が低く感じた。しかし、本日決定することに対して全く異存はない。
- ・ 使用している色を変えるなど、条件付で選ぶことはできないか。(千田委員)
- ・ 修正意見付きで選定された場合は、応募者による修正を経て選定としたい。(事務局)
- ・ 分かりやすさ、おもしろさから、6番、9番、13番を推薦したい。(河内委員)
- ・ メインが6番、7番、8番だと思った。7番と8番はロゴタイプが違うだけでアレンジ可能である。
- ・ 6番は抽象的であるのに対して、7番は具象的。6番は洋風のイメージであるが、一般に受け入れられるのではないか。
- ・ あとは「はなやか関西～文化首都年～」に和のイメージを持つかどうかの選択の違いだと思う。できれば和のイメージの方がユニークで好ましい。例えば新幹線にポスターを貼ることを想定すると、和のイメージが関西らしい。(坂上委員)

- ・ デザイン性からいうと6番が一番優れている。ただ、文字が黒文字である点と、やや寒色系が勝っているという点を修正してもらいたい。
- ・ ポスターにした場合、ロゴマークが目立つのかどうか心配である。さらにちょっと心配なのが、徳島県が入りたいと希望した場合、花びらが一つ足りないという心配がある。(千田委員)
- ・ ロゴマークは「茶の文化」だけで使うのではなく、今後、長く使う必要がある。テーマが変わる度に、デザインが変わると浸透しないことを考慮すると、抽象化されたものが良い。
- ・ 「はなやか」という言葉で花を連想するのは表面的。関西の「はなやかさ」はもっと奥が深く、後ろに神がいる話なので、即物的に花が出てこない方が良い。という観点で、抽象化されたほうが望ましい。季節を連想させるのも、特定の地域を連想させるのも良くない。
- ・ また、名刺にラベルとして貼ることを考慮して、目に留まるようなアイキャッチが要る。
- ・ したがって、抽象性とアイキャッチ性を考え、デザイン性を無視して2番を推す。結論としては、2番か6番が良いという意見になる。(堀井委員)
- ・ 若者の感性を重視して、社内の若い女性に選んでもらった結果、6番、7番、9番になった。
- ・ 多様性の観点では6番が良いが、色は千田委員が指摘するように寒い印象がある。(村田委員)
- ・ 今後の使われ方を考慮すると、6番、7番、8番、9番が候補だが、9番は文字が弱い。印刷物にした場合、7番、8番でも小さくなる。さまざまな印刷物で展開しやすいのは桜のマークと思われるため、7番、8番を推した。
- ・ 6番も「文化首都年」という文字が小さいので見難くなるため、ロゴマークと文字を分けて、組み合わせ方を何パターンか考える必要がある。
- ・ 一人一点の投票による多数決で決めたい。(橋爪座長)
- ・ 投票の結果、2番が1票、6番が3票、「7番・8番」が2票となり、6番としたい。ただし、今後6番には近畿10県を含めて解説を検討していただく。(橋爪座長)
- ・ 暖色系に変えることと文字をわかりやすくするという2点の修正を応募者に依頼する。どうしても変えられない場合は、委員の皆様と相談したい。(有吉部長)
- ・ 6番は色が3色なので、本当なら全て違うグラデーションの方が良いと思う。(坂上委員)
- ・ 「はなやか関西」という言葉は、もともと関経連につくった。関経連がロゴマーク

- を使う場合、「文化首都年」が入っているのはおかしい。
- ・ 「文化首都年」という言葉を外して使う場合、支障はあるのか。その際、了解いただく必要はないだろうか。
 - ・ 千田委員からも「はなやか関西」をもっと広めるように言われている。(村田委員)
 - ・ 関経連が独自にロゴをつくれ、「はなやか関西～文化首都年 2011」も独自のロゴマークがあるというのは好ましくない。
 - ・ ロゴの使用にあたり、応募者とはどのような契約状況にするのか。(千田委員)
 - ・ 関経連がロゴを使用するとは聞いていないが、その点も含めてこのロゴマークから「文化首都年」を取ったデザインでも使えるよう、応募者と協議することもできる。(事務局)
 - ・ 先日の新聞取材の際も「はなやか関西～文化首都年 2011」の主催団体について、関経連なのかと聞かれた。
 - ・ 同じ名前が違う動きが出てきたときに、そのマークが同じという場合が想定される。事務局で使い方等を調整しなければ、受け手が混乱する。(橋爪座長)
 - ・ 「文化首都年」の文言を加えたり外したりできるようにしたい。(事務局)
 - ・ 基本的なデザインパターンだけ決めて、適宜アレンジを検討できるようにすれば使いやすいのではないか。(坂上委員)
 - ・ 「はなやか関西」のロゴマークデザインについては、関経連とも相談し、「文化首都年」の有り無しどちらでも使えるパターンとする旨、応募者と相談したい。(事務局)
 - ・ 逆に関経連にも「はなやか関西～文化首都年 2011」の宣伝していただく展開も考えられる。事務局で各部局との連携が実現できるようお願いしたい。(橋爪座長)
 - ・ 着色について、委員からご指摘いただいた、「文化首都年」の文字を取り得るかどうか、色を寒色系中心から暖色系に変更可能か、花びらの数と府県の数とはリンクさせないこと。以上について調整させていただく。(事務局)

○閉会

- ・ ロゴマークの選定について最終選考に残り、惜しくも最優秀賞に選定されなかった応募者については優秀賞とさせていただきます。なお、同一人物からの重複応募があるため、優秀賞は3名となる。
- ・ 本日は長い間のご議論、ありがとうございました。(事務局)

(以上)